
バカあねスクランブル

ちゃそ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカあねスクランブル

【Nコード】

N5140R

【作者名】

ちゃそ

【あらすじ】

家庭の事情で突如2人暮らしを始めることになった姉弟。残されたのは、豪邸と大金。それほど苦勞もしなさそうな、姉弟のめちゃくちな日常のお話。

第一話：ある朝のお話

——これは一週間前

父さんは、『父さんの会社が倒産しそうなんだ！』と、ネタなのかマジなのか分からない言葉を残して、大慌てで母さんとどこかに消えた。

とりあえず生活費、と家に置いて行っただのは凄まじい額が貯金された通帳。

もともと父さんは大企業の社長なので、家庭は裕福、ぼくと姉さん、そして両親で平和に暮らしていたが、突然、姉さんとの2人暮らしが始まった。

その日から徐々に、うちの姉はおかしくなっていきました。

「弟よ、姉さんのおっぱいを見てくれ……こいつをどう思う？」

「……はあ……」

朝、部屋で制服に着替えようとしているぼくの前に突如現れた姉は、どこかで聞いたようなセリフを言う。

ため息が盛大にこぼれた。辛うじて、下着は上下身につけているが、そもそも下着姿でいることが大問題だ。

「服を着よう」

「暑い」

「それはこの家が全室冷暖房完備で常に暖房が効いているからだよ。ちなみに知っていると思うけど今は12月、まあ暑いなら仕方ないから暖房切るよ」

「ダメダメダメダメ」

姉さんはどこから制服を持ってきて身に付けた。それがぼくと姉さんの通っている学校の制服とは違うものであることは、この際もうどうでもいいや。

「でもね、姉さん思っんだよ」

「何をさ？」

「家の中なんだから、別に下着姿でもいいと思うんだよ、おっぱい見えててもいいと思うんだよ」

下着だけでも身につけてたらそれは見えないだろう……けどそういう問題じゃない。

「じゃあ例えば、宅配便が届いたとする。姉さんどうするの？」

「そのために弟がいる」

「……ぼくが外出していたら？」

「弟がいらないのになんで私が下着姿でいるんだ、私は露出狂じゃないんだ」

「じゃあどうしてもぼくが応対できなかつたら？」

「そりゃ服を着る」

どうなっているんだこの姉は。

「つまり姉さんは、ぼくがいるから、ぼくに見せるために服を着ていないということ？」

「そうだよ」

「なんでまたそんなことを！？」

やはりバカなのか姉さんは、それともぼくをバカにしているのだろうか。

父さんと母さんが家からいなくなるまでは、こんなことは無かった。一体どうしたんだろう。

「それは姉さんがね、弟よ。君を愛しているからだよ」

「え？」

「異性としてだな」

「ああなるほど……ってええ！？」

普通そこ家族としてとか、姉弟としてとかじゃないの？ とんで

もないことをカミングアウトされたばくは、一体どうすればいいんだろう。

「それは、なんというか、父さんたちがいた時から？」

「うん、そうだ。昔から、弟のことが大好きだったよ」

……そんなことを言われた弟はどうするべきなんだろう。

姉さんは、かなり美人の部類に入る。それこそ彼氏の1人もいないことが不自然に思われるほどで、まさか弟なんて近親に走るなんて想像もできないレベルだ。

対してばくは何の変哲もない、彼女がいない、まあ妥当な人間だと思うんだ。

「そんなことを、いきなり言われても……」

「まあ冗談なんだが」

ちくしょう。

「まあ冗談に決まっているよね」

ばくは悟られないように精いっぱい笑顔で姉の笑顔に応えた。どうやら動揺は隠せたらしい……

——突然、目の前に姉の顔が近付いていた。作り笑いを押しとおせたことによる安堵で生まれた一瞬の隙に、音も無く近づいていたらしい。

てんぱったばくは反射的に姉さんの額にヘッドバットをかまして

いた。

ゴスン、と鈍い音が響き姉さんが床に尻もちを突く。

「ぐっ……じ、冗談だ……！」

目じりに涙を浮かべながら姉さんはそんなことを言う。

いや、何が冗談なんだよ、というか何をしようとしたんだうちの姉は……

「とりあえず学校行こうよ、姉さんもそのコスプレっぽい制服じゃなくて学校の制服に着替えてね」

「あいあいさー」

姉は自室に戻った。

ぼくもようやく落ち着いて、着替えを始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5140r/>

バカあねスクランブル

2011年10月8日20時51分発行